

○その他必要な調査・研究

項目	内容	実施主体	実施頻度	関連する「本計画の目標」	備考
繁殖状況の調査	標識装着個体の追跡や遺伝子調査、外部的特徴による個体識別調査の結果から、毎年の産子数や生存率など繁殖状況を把握する。	知床財団、知床博物館、北海道大学	(毎年)	①	外見的特徴による個体識別調査は、実施地域が斜里町の一部(幌別・岩尾別地区、ルシヤ地区)に限定。平成29年までは継続、その後の実施は未定。
血縁関係の把握	有害捕獲や狩猟により死亡したヒグマについて、個体識別のための遺伝子調査を実施、血縁関係を把握する。また、生体からもサンプルを採取して同様の調査を実施する。	知床財団、知床博物館、北海道大学	(毎年)	①	平成29年までは継続、その後の実施は未定。
生息地利用様式や行動パターンの調査	標識装着個体の追跡等により、土地利用様式や行動パターンを把握する。	知床財団、北海道大学、知床博物館	(毎年)	⑤⑥⑦	捕獲地域が斜里町と標津町の一部に限定。北大・博物館による調査は平成29年までは継続、その後の実施は未定。
問題個体数の動向把握	出没情報を基にヒグマの問題個体数を推定する。	環境省、知床財団、道環境研	毎年	②③④⑤⑥⑦	標津町では実施なし。 ※実施主体については調整中。
観光船からのヒグマの目撃状況	観光船からのヒグマの目撃状況(頻度・構成)から、ヒグマの生息状況を把握する。	知床ウトロ海域環境保全協議会	毎年	①	ウトロ港発着の観光船でデータを採取。
ミズナラ結実調査	ヒグマの餌となるミズナラ堅果について、シードトラップを設置して、個数と重量を計測する。	林野庁	毎年	-	斜里町の2カ所(岩尾別・イダシュベツ)で実施。
サケ科魚類遡上調査	サケ科魚類の遡上状況を調査する。	林野庁、北海道	隔年	-	河川工作物の改良等に関連して実施。
遺産地域からの移動分散状況の調査 (広域的な捕獲個体との遺伝子情報の対比など)	標識個体の追跡、遺伝子情報の対比等により、遺産地域から知床半島基部、さらには道東各地へのヒグマの移動分散状況を把握する。	知床財団、知床博物館、北海道大学	未定	⑤⑥⑦	
最低メス個体数カウント調査(出没記録)	出没情報等を基にメスヒグマの最低確認頭数を推定する。	環境省、斜里町、羅臼町、標津町、知床財団、道環境研	毎年	①	※実施主体については調整中。
最低メス個体数カウント調査(DNA分析)	DNA分析結果を基にメスヒグマの最低確認頭数を推定する。	知床財団、知床博物館、北海道大学	毎年	①	
糞カウント調査	設定したコース上でヒグマの糞を調査し、糞発見頻度を計測、DNA分析結果を合わせて広域的な密度を把握する。	知床博物館、環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、標津町、知床財団	未定	①	実施方法・体制等を検討中。
広域ヘアトラップ調査による生息数推定	毛根から採取した遺伝子情報により、個体数を推定する。	未定	未定	①	実施方法・体制等について検討が必要。